

# 加賀藩御定書卷九

## 寺社御定書

### 一 加州分社領・寺領並 御修覆地之事

一、百石 下白山社 惣長吏  
 一、六拾七石三斗三升三合三勺 同社 神主拾人  
 養老元年より社領御座候由。中古亂世に而、社及大破候處、  
 高德院様當國に被爲入候而、社御再興社領御寄附被遊、夫  
 より御代々修理被仰付候。

#### 古案

爲白山長吏職料、以石川郡白山・三宮兩村之内、百石目録在別紙事  
 進上、永不可有相違。者神事祭禮等、無怠慢可被抽國家安  
 全精祈之狀如件。

寛文六年七月廿五日

白山社總長吏法印澄意

中將菅原

(調利) 尊名

一、百石

小松天神社

一、銀六貫百二拾目

同社

一、田地二町

寺中社

但、高直し三拾石、外六石五斗八升二合五勺御代官附に  
 成る。

天平元年より寺中之宮は御座候得共、中頃之儀は亂世に  
 而誰取立と申儀相知不申候。天正十四年高德院様諸堂御  
 再興被成候。寛永十六年微妙院様より社堂御再興被遊、  
 夫より御代々修理被仰付候。

一、田地三町

黒津舟社

但、高直し四拾五石。

黒津舟は小濱之神社に御座候。養老年中勸請之由申傳候  
 得共、中頃亂世に而、縁起等茂燒失仕候。本社并神明拜  
 殿・御供所・鳥居、天正十四年高德院様より御建立之由。  
 其以後御代々修理被仰付候。右之内拜殿・御供所、微妙院  
 様御再興可被仰付由に而、御大工山上善右衛門御請上申  
 候處、翌年御隱居に而不被仰付、于今材木迄御座候。今